

宝のえにしに平八幡

(市内の貴重な文化財や自然などを紹介します)



北から望む城館跡(松尾地区野駄地内)

城館平

— 一戸南部氏の岩手群進出の拠点 —

県内では、約1,500カ所の城館跡が確認されています。古代平安時代の城柵やエミシといわれた人々が立てこもった高地性防御集落、中世戦国時代の大名や土豪が領地を守るために築いた大規模な山城や、住民が戦乱の際に自主的に避難するための小規模城館、近世江戸時代の大名が領国を統治するための象徴となった水堀をたたえ石垣を築いた盛岡城に代表される平山城などさまざまな城館があります。東北では、「タテ」と呼ぶことが多く、館や楯という字をあてます。その多くは城主が不明で、古文書などに書き記されることなく、今に伝わっています。市内では、約30カ所の城館跡が確認されていますが、城主が伝わっているものは、ほんの一握りです。

今回、紹介する平館城は、「館山」とも呼ばれ、野駄森(標高397m)から北東方向にのびる丘陵崖の先端に立地する平山城です。北から東側へ赤川が水堀の様に流れ、その比高は約40mです。西側の八幡神社裏手から東側の大泉院まで二段の帯曲輪が三方をめぐり、各山頂には掘割や平場が確認されます。

城主は、南北朝時代末に土着したと思われる一戸南部氏の一族である平館氏です。本拠地の一戸や鹿角郡、不来方に通ずる交通の要衝に位置する平館郷には、同族の荒木田氏、堀切氏、寄木氏が、まわりを固め、岩手郡進出の足掛かりとなる重要な拠点でした。天正年間には、一戸城主の兵部大輔政連の弟である政包が城主だったとされています。

- 《参考文献》
- ・「岩手県中世城館跡分布調査報告書」(1986) 岩手県教育委員会
 - ・「日本城郭大系 2」(1980) 榊新人物往来社
 - ・「岩手県管轄地誌」(明治12年発行、2003復刻) 日新印刷(株)
 - ・「岩手県史第3巻」(1961) 岩手県

編集後記

今年は夏が長く、暑い暑いと言っていました。もう肌寒さを感じ、短い秋となりそうです。食欲の秋も短く済めばよいのですが、良く考えたら私の場合、食欲の春夏秋冬とも言える状態でした。▽広報クイズに多くのご応募をいただき、ありがとうございます。添えられた感想を今後の参考にさせていただきます。▽周りにマスク姿の人がちらほら。皆さんも風邪に気を付けて、残り約2カ月を乗り切ってください。(佐々木)

今月の表紙

おいしいお米が育ったよ

田頭小学校稲刈り体験が10月12日、清水畑京子さん(町組)所有の水田で行われました。

5、6年の児童43人は、ことし6月に自分たちで植えた稲の刈り取りとはせがけを行いました。始めは慣れない手つきで作業していた子どもたちも、徐々にコツをつかんで、最後は楽しみながら秋の収穫を体験しました。脱穀作業も終え、11月23日(祝)には、「道の駅にしね」で販売も行います。

